

平成26年度
入学試験問題（第三回）

国
語

注意事項

- ※ 問題冊子は18ページまであります。
- ※ 試験時間は50分です。
- ※ 開始の合図があるまで開かないこと。
- ※ 答えは全て解答用紙に書くこと。
- ※ 句読点やカギカッコは一字と数えること。
- ※ ページが抜けていたり、印刷が見えにくかったりした場合には、手を挙げて知らせること。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

次の文章は昭和四十四年（一九六九年）に書かれました。当時は今のようなインターネットもなければ、携帯電話、ファックスもなく、コピー（複写）機もほとんど普及していませんでした。そのことを念頭に置いて文章を読みなさい。

わたし自身の過去をふりかえってみても、そうである。わたしは、ながねん学校にはかよったけれど、先生たちは学問の内容をおしえるばかりで、勉強のしかたという点では、意識的にせよ無意識的にせよ、結果的には意外に秘密主義であったように思う。たとえば、ノートのとりかたひとつにしても、わたしは、先生から直接おそわったという記憶がない。文献カードのつくりかたさえも、おしえてくれなかった。みんな、「みようみまね」でやってきたのである。

5 あるいは、それでよかったのかもしれない。おしえてくれないからこそ、学生たちは自発的・積極的に、自分できゅうし、あるいは先生や先輩のやりかたを「ぬすんで」、どうやらきりぬける方法を身につけるようになるのである。学校の先生の秘密主義せんぱいというのも、遊芸師せんぱい匠ししやうの指さし南なん法ぽうとおなじで、やはり教育きよくというもののツボつぼをこころこころこころえてのことであつたかもしれない。

10 それで、すべてうまくゆくなら問題はない。③、じつさいはそうはゆかないのである。秘密主義ひみつしぎのやりかたでは、みんながまんまと秘伝ひでんのぬすみどりに成功するとはかぎらないのである。そしてその結果、基礎的素養きそてきそやうにおいて欠陥けつげんのある研究者が、つぎつぎと出現してくるということになる。知識においては高度なものを身につけているくせに、研究けんきゆの実践じつげん面めんにおいては、いちじるしく能力が低い、というような研究者がでてくるのである。

じつは、わかい人たちのことばかり、いっておられないようだ。われわれ中堅ちゆうけんどころにいる研究者だって、ほんとうは、おそ

15 ろしく研究能力がひくいのではないだろうか。それも、頭がわるいとか、なまけものだとかの理由からではなく、もっぱら研究の「やりかた」がまずいために、研究能力がひくい段階にとどまったままである、ということがあるのではないだろうか。いわば、技術の不足にもとづく研究能力のひくさである。

20 たとえば、日本の研究者たちは、むかしから原稿の複写をとるということをしない。複写の技術的手段も、ながく開発されることがなかった。アメリカなどでは、論文や著書は、印刷して公表するまえに、原稿の複写というかたちで、それぞれ数人の専門家たちに目をとおしてもらい、というのがふつうのやりかたである。そういう原稿が、海をこえてわたしどものところまでまわってくる。ところが、こちらはそんなことは、したことがない。印刷され、発表されたものをみているかぎり、形はおなじだが、内容の吟味ぎんみという点では、あきらかに一段階ちがうのである。これを、技術の不足にもとづく研究能力のひくさといわずして、なんであろうか。

25 ⑥、つぎのようなこともある。研究に資料はつきもので、研究者はさまざまな資料——たいていは紙きれに類するものだが——をあつかわなければならぬ。ところが、そういうもの⑦法の研究がすすんでいないために、おおくの研究者は、どうしていいかわからない。研究室はわけのわからぬ紙切れの山で大混乱⑨ということになる。

30 ⑧、混乱をふせぐために、しばしばとられている方法は、いわば「きりすて法」とでもいうようなやりかたである。つまり、自分の学問的関心を、できるだけせまい分野にとじこめてしまつて、それに直接の關係をもたない事項は、全部きりすてしまうのである。そういうふうには、みずから専門をせまく限定すると、必要な資料はごくすくないものとなる。それ以外の資料は、すべてまるめて紙くずかごにほうりこめばいい。

30 たしかに、こういうやりかたをすれば、資料を整理する必要はすくなくなつて、研究室も混乱しなくてすむ。そのかわり、いわゆる専門バカといわれるような、視野しやのせまい、学問的生産力のとぼしい研究者になりやすい。これは、われわれ研究者が、しらぬまにおちいりやすいおとしあなで、つねに自戒注5をおこたつてはならないことだろう。これも、整理の技術がしつかりして

おれば、よほどすぐえるはずのものである。

35 　　こういう例のほかにも、やりかたさえうまくやれば、はるかに成果があがるだろうとおもわれることが、すくなくない。ところが、どういうわけか、そのような研究生活における基礎的技術みたいなものは、研究者のあいだでも、意外に論議されることがないのである。ずっと高級な、それぞれの専門領域における特殊技術については、くりかえし議論がおこなわれ、本もたくさんある。ところが、もつとも一般的な、研究者ならだれでも身につけていなければならぬような、共通の基礎技術みたいなものについては、かえってだれも関心をはらわないのである。そういうことを主題にした本もない。

なぜこういうことが議論の対象にならないのかというと、おそらくは、それがあんまり日常的で、あたりまえのことだからだろう。⑩、複写の話とか、資料の整理法とかも、とりたてて「技術」というのもおかしいようなことなのだ。

40 　　もうひとつの理由として、わたしは、研究者における技術ぎらい、あるいは技術軽視けいしということがあるのではないかと想像している。日本だけのことかどうかわからないが、すくなくとも日本では、とくに高級知識人のあいだで、かなりそのような傾向がみられるようである。技術というものは、なんとなく人間性に反したもののようにかんがえられ、あるいはまた、ものごとの本質からはなれたことだとかんがえられているのである。「技術的」ということは、しばしば、「枝葉末節しやうまつせつ」とか「表面的・非本質的」という意味をもふくめてもちいられる。

45 　　この点については、研究者のなかでも、理科系のひとと文科系のひととは、かなり態度のちがいがみられるようである。技術ぎらいは、やはり文科系のひとの場合におおい。文科系の研究者のなかには、整理ていりということさえ徹底的てつていきてきに拒否きひする、という生活態度を堅持しんじしているひともある。

50 　　技術ぎらいの高級知識人でも、じつは、個々の研究者についてみれば、技術を持っていないわけではないわけではもちろんない。むしろ、なかなか高度の技術を身につけているひとがおおいのである。ただ、そういうものを技術とかんがえることをこのまない、というにすぎない。

技術というものは、原則として没個性的注7である。だれでもが、順序をふんで練習してゆけば、かならず一定の水準すいじゅんに到達できる、という性質をもっている。それは、客観的かつ普遍的注8で、公開可能なものである。ところが、それに対して、研究とか勉強とかの精神活動は、しばしばもつとも個性的・個人的なものとみであつて、普遍性がなく、公開不可能なものである、ということがえかたがあるのである。それは、個性的な個人の精神の、奥ぶかい秘密の聖域せいいきでいとなまれる作業であつて、他人にみせるべきものではない……。

しかし、いろいろしらべてみると、みんなひじょうに個性的とおもっているけれど、精神の奥の院でおこなわれている儀式⑫は、あんがいおなじようなものがおおいのである。おなじようなくふうをして、おなじような失敗をしている。それなら、おもいきつて、そういう話題を公開の場にひっぱりだして、おたがいに情報を交換するようにすれば、進歩もいちじるしいであろう。そういうようにしようではないか、というのが、このような本をかくことの目的なのである。

（梅棹忠夫著『知的生産の技術』（岩波新書）より）

注

1 遊芸——茶の湯、生け花、琴、三味線、落語、などの遊びごと。

2 指南法しなんぽう——教え導みちびく方法。

3 素養——普段から養やしないたくわえている教養。

4 中堅ちゆうけん——地位はそれほど上位ではないが、中心の働き手となったり、確実な業績を上げたりしている人。

5 自戒じかい——自分で自分をいましめつつしむこと。 6 堅持けんじ——考え方や態度などをかたく保っていること。

7 没個性的ぼつこせいてき——個性がないこと。 8 普遍的——すべてのものにあてはまる様子。

問 1

——線部①「学校の先生の秘密主義」とありますが、それはどのようなことですか。その答えとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 学校の先生は、学問の内容も勉強の仕方にも誠意を持って生徒に教えようと考えていたこと。

イ 学校の先生は、学問の一般的な内容は教えても、学問の一番大切な部分は教えてくれないこと。

ウ 学校の先生は、学問の内容は教えても、ノートのとりかたなどの勉強の仕方は教えてくれないこと。

エ 学校の先生は、ノートの取り方などの勉強の仕方を教えることは自分たちの仕事ではないと考えていたこと。

問 2 — 線部②「ツボ」とありますが、本文ではこの言葉をどのような意味で使っていますか。その答えとして最も適切なものを

次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 形式的なところ

イ 克服こくふくするべきところ

ウ 期待しているところ

エ 重要なところ

問 3 — 線部④「研究の実践面においては、いちじるしく能力が低い」とありますが、このように能力の低さがあらわになってし

まうのは、研究者に何が足りないからですか。その答えを本文中から漢字二字で抜き出しなさい。

問 4 — 線部⑤「日本の研究者たちは、むかしから原稿げんこうの複写ふくしゃをとるといふことをしない」とありますが、「日本の研究者たち」が

「むかしから原稿の複写をとるといふことをしない」ために、どのようなことが起きたと筆者は考えていますか。その答えとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 原稿が他の研究者たちの目に触れることが少なくなり、その内容が適切かどうかを検討する機会が減ってしまった、ということ。

イ 原稿が多くの研究者たちの目に触れることになり、日本の研究者たちの研究活動に傾ける情熱のなさが明らかになってしまった、ということ。

ウ 原稿を複写する技術開発が日本ではなかなか進まず、研究の質を高めるために複写技術を役立てることが出来なくなっ

てしまった、ということ。

エ 原稿を複写する技術開発が日本ではなかなか進まず、外国の論文や著作を自分の研究にどう生かすかを学ぶ機会が少なくなってしまう、ということ。

問 5 ⑦に入れるのに適切な語を、本文中から漢字二字で抜き出さない。

問 6 ——線部⑨「きりすて法」とありますが、このようなことをすることによってどのような研究者が生まれてきてしまう、と筆者は心配していますか。その答えとして最も適切な一文を抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問 7 ——線部⑩「研究生生活における基礎的技術みたいなものは、研究者のあいだでも、意外に論議されることがないのである」とありますが、「研究生生活における基礎的技術みたいなもの」を研究者たちが論議しないのはどうしてですか。その理由を二点、それぞれ二十五字以内で答えなさい。

問 8 ——線部⑫「儀式」とありますが、具体的にどのようなことですか。その答えを本文中から十三字で抜き出さない。

問 9 本文の内容として適切なものを次のア～オの中から二つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 研究成果をあげるには、学問的な関心を幅広く持つことが最も重要である。
- イ 研究を進めるための基礎的な技術は、研究そのものの質と深く関わっているとと言える。
- ウ 研究を進めるために技術を身につけることは、研究者にとってあまり重要なことではない。
- エ 研究とは独自のものであるもので、それを公開することは研究者の独自性を失うことになりかねない。
- オ さまざまな研究には多くの共通の性質があるため、失敗や工夫を公開することが全体の利益につながる。

問
10

ア ③ ・ ⑥ ・ ⑧ ・ ⑪
また
イ ③
そこで
ウ ③
ところが
エ ③
たとえば

に入る言葉を次のア～エの中から一つずつ選び、その記号を答えなさい。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

大学を出て田舎に戻った小宮山結乃は、一流化粧品会社の美容部員になりデパートで働くことを目指していたが、就職活動に失敗し、不本意ながらショッピングモールの片隅にある化粧品会社のカウンターで働き始める。しかし結乃から化粧品を買いたいという固定客はなかなかつかず、結乃は自分に自信を持ってない。そんな時に、カウンターのいすに腰掛けいつも話をするだけで、これまでに結乃から買ったものは顔用剃刀セット一つ、という浜崎さんが現れる。

「あかるい口紅がほしいんや」

「はい、かしこまりました」

5 即座に答えたものの、やはりおかしいと思う。あかるい口紅？ ここで化粧品を買ったこともなかったのに？ 必要ならお嫁さんの化粧品を借りると笑っていたのに？ 疑問符がくるくるまわっていたけれど、あかるめの口紅を何色か見繕ってトレイに載せる。

「いかがでしょうか」

6 ぼんやりしているようすの浜崎さんにトレイを差し出し、注デイスポーズブルの紅筆を手渡す。

「よろしかったら、お好きなものをおつけになってください」

10 浜崎さんは無表情だった。順々にスティックをまわして口紅の色を確かめていき、自分ではつけぬまま一本の口紅を指した。ローズ系でほんの少し紫が入っている。大人のあかるさのある一本だ。

「これ、どう思う？」

「はい、あかるいながらも落ち着いた、いい色目①だと思います。きっとお似合いになります」
うん、と浜崎さんはうなずいた。

「ほな、こっちは？」

15 次に指されたのは華はなやかな赤だった。

「こちらはお祝い事などのあるときにおつけになるとよく映える色です。お着物にも意外とよく合うようです」
うん、とまた彼女はうなずいた。そうして、さらに隣の一本を指した。

「ほな、これはどうやろ」

あかるい、という条件で選んでしまったけれど、浜崎さんにはちょっとフレッシュすぎる色②だったかもしれない。ピンク、それもやわらかで混じりけのない桜のような色合いのピンクだった。

「はい、こちらはお若い印象になるかと思えます。初々しく澄んだあかるい色ですが、お顔の色味と合わせるのに少し気を遣づうかもしれません」

浜崎さんは今度はうんとは言わなかった。ただ黙ってその口紅を見ていた。浜崎さんがじっと口紅を見つめている間、私も息を詰めて浜崎さんを見ていた。彼女が何を考えているのかはわからなかったが、次に何を言うのかはわかるような気がした。

25 「これ、つけてみていいか？」

「もちろんです」

予感当たっていた。やはり浜崎さんは三本目に指した桜色を手を取っている。真剣な目つきで筆に口紅を取り、鏡を覗ぞきながら唇に載のせた。

「……どうやろ」

30

鏡に向かったまま目だけを動かして私を見る。

「そうですね、かわいらしい色だと思います」^③

ほかに答えようがなかった。似合っているとは言いがたい。浜崎さんの少しくすんだ黄味の強い肌色に、淡いあかるさの口紅だけが浮いている。

35

「よろしかったら、こちらもおつけになってみませんか。きっとよくお似合いになると思うのですが」

落ち着いたほうの一本、さつき浜崎さん自らいちばん最初に指したローズ系を勧め^{すす}てみる。浜崎さんはちらりと目を遣^やっただけで無言だった。

「もしかして」

思いついたことを口に出してみた。

「どなたかへのプレゼントでしょうか」^④

40

みずえさんへの、プレゼント。いつだったか私自身が勧めようとした覚えがある。もしかして、今日はそれを買いに来てくれたんだらうか。それなら、若々しいこの色もいいかもしれない。

しかし、浜崎さんはおもむろに首を振った。

「私がつけるの」

声は小さかったがはっきりしていた。

45

「あなたを頼りにしてるんや」

浜崎さんが桜色の口紅を握ったまま、鏡から顔を上げる。

「できるだけあかるい色がほしい」

明らかにようすがおかしかった。いつもの、がははと笑う元気なひととはまるで別人だ。何かわけがあるんだらう。私が首を

突つ込むことではないが、できるだけ力になりたかった。

50 あかるい色。胸の中で繰り返す。どんな色のことだろう、あかるいとはどういうことだろう。

「浜崎さんがあかるく見える口紅がいいんですね」

尋ねると、彼女はうなずいた。

「あの、どこかで、どなたかに、あかるく見られたいのでしょうか」

55 口紅をつけた鏡の中の顔にほほえみかけたいただけなら自分のいちばん好きな一本を選べばいい。でも、誰かと会うのなら、その相手をなるべく具体的に想像してみるとイメージがわくだろう。

浜崎さんは桜色の口紅をつけた唇を結んだままだった。

誰かと会う、と答えるにも、勇気が要るのかもしれない。今、私は誰かと会うのが日常のことだから、簡単に聞いたり答えた
りできるのかもしれない。⑥

「出過ぎたことをお聞きしました」

60 下げた頭を起こしたとき、不意に浜崎さんは口を開いた。

「今夜が峠なんやって」

⑦ 声だった。峠という単語が厳しきよりもさびしさをまとって耳に滑り込んできた。私は何も言えずに続きを待った。

「信じられんなあ。今夜が峠。今夜が峠やって、あのひと」

浜崎さんは気の抜けたような声で小さく笑った。

65 「初恋のひとやったの。——笑ってまうやろ、こんなおばちゃんが初恋やなんて、あはは」

あははと笑う彼女の目から涙の粒が転がり落ちる。

「さつき病院で先生に言われたとこ。ほしたらなんや普通にしていられんようになってもて、気がついたらここへ口紅買いに

来てた」

70 それで、初々しい、若い、あかるい、初恋の頃を彷彿とさせる一本を選びたかったのか。やっぱり、私は未熟者だ。そんなとき口紅を買いに来てくれるなんて、それなのに期待に応えることができないなんて。

「会えるのも今日が最後になるんなら、あかるい顔で笑って見送りたいなあと思うて買いに来たんやけど——」
あかるいだけの色では、今の浜崎さんには似合わなくなってしまっている。今の浜崎さんに似合う色こそ顔をほんとうにあかるく見せるのだと思う。

「選びましょう。いちばん似合う色」

75 コットンにリムーバー注3を含ませて、そつと浜崎さんの唇を拭う。

「ほかの色も、ぜひつけてみてください。つければきつとわかります、どれがいちばん浜崎さんに似合うか、浜崎さんのお顔をいちばんあかるく見せるか」

浜崎さんはうなずいて、順番に口紅を試し始めた。真剣に鏡を覗く浜崎さんをカウンターのこちら側から見つめているうちに、何か不思議なものが見えてきた気がして私は目をこすった。

80 夕方になると現れてスツールにすわり込んで喋り倒していく浜崎さん。そのくせこれまでに私から買ってくれたのはフェイス用剃刀かみそり一パックだけの浜崎さん。からあげを買ってきてくれた浜崎さん。みずえさんの悪口を言う浜崎さん。でもときどきはみずえさんの肩を持つ浜崎さん。——堂々とした体軀しやうを縁取る輪郭りんかくがぼやけ、彼女の中から、その皮膚ひふの内側に潜んでいた繊細な少女がふっと姿を現したように、見えた。初恋のひとつ、と口にするだけで頬を染めた少女。それはほんの一瞬のことで、目をこすったらまたいつものどつぷりした浜崎さんが鏡を覗いていたのだけだ。

85 「どうやら、これ」

意外にもベージュ系の一本だった。私には到底選べなかった。恥ずかしげに顔を上げた浜崎さんの口元はしつとりとあかるく

彩られ、顔色まで輝かせている。

⑨「それです！ それですよ」

思わず大声を上げたら、向かいのカウンターの美容部員まで驚いたようにこちらを振り返った。

「すごくお似合いだと思います」

小さい声で言い直す。浜崎さんが満足げにうなずいた。

「ほな、これ貰うわ」

⑩「ありがとうございます」

95 ほんとうに、ありがとうございます。そんな大事なときにここで口紅を買ってくださって。私にそのお手伝いをさせてくださって。

「これから、病院に戻られるのですか」

口紅を包みながら聞くと、浜崎さんはきっぱりとした声で、

⑪「これから、最後の大仕事や」

先ほどまでの虚ろな表情ではなかった。

「少しだけお顔をこちらに向けていただけますか」

急いでフェイスブラシに白いパウダーを取る。それをいったん手の甲で馴染ませてから、

「ちよつと失礼いたします」

こちらを向いている浜崎さんの目の下をさつと撫でる。反対側の目の下にもさつと。新たに取ったパウダーを、顎の下にも。

それだけで顔の光度が上がる。どこにどう入ったのかわからない程度の白の一刷毛で、顔がぱつとあかるくなった。

「あら、どうしよ、十ほど若くなってもた。四十くらいに見えるんでない？」

とてもあかるくはいられないはずの浜崎さんがあかるい顔で笑ってみせる。こんなときでもしつかりとサバを読んでいると思
うが、ここはうなずくしかない。

口紅の代金を受け取りながら、ふと、聞いてみたくなった。

「初恋のひとの消息をよく()存じでしたね」

すると、浜崎さんは目を瞬(また)かせた。

「消息ってあんた、うちのおとうちゃんやわの」

「あ、ああ」

間拔けな返事をした私を見て、浜崎さんがにんまりと笑っている。

(宮下奈都『メロディフェア』(ポプラ社)より)

110

注 1 デイスポーズザブル——使い捨てすることができる。

3 リムーバー——口紅やマニキュアを落とすための薬剤。

2 彷彿(ほうぶつ)——ありありと目の前にうかぶこと。

4 フェイス——顔。

5 体軀(たいく)——からだ。

問 1 ——線部①「色目」とありますが、ここで使われている「目」はどのような意味で使われていますか。その答えとして最も適

切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 場合 イ 要点 ウ 眼球 エ 様子

問 2 ——線部②「フレッシュユすぎる色」とありますが、「フレッシュ」という言葉はここではどのような意味で使われていますか。その答えとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 若々しい イ 白々しい ウ 晴れ晴れしい エ ふてぶてしい

問 3 ———線部③「そうですね、かわいらしい色だと思います」とありますが、結乃は浜崎さんになぜこのように言ったのですか。その答えとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア その口紅が浜崎さんには似合っていないことを遠回しに教えてあげるのが、美容部員としてのつとめだと考えたから。
イ その口紅が浜崎さんには似合っていないことを浜崎さんに悟きられないようにするために、嘘をつくしかなかったから。
ウ その口紅が浜崎さんに似合っていないことを正直に伝えることができず、口紅の色そのものをほめるしかなかったから。
エ その口紅が浜崎さんには似合っていないことを正直に伝えることは、浜崎さんをますます傷つけることになるから。

問 4 ———線部④「どなたかへのプレゼントでしょうか」とありますが、この時の結乃の気持ちの説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 結乃がすすめる口紅には目もくれず自分の好きな口紅にこだわる浜崎さんを、不快に思う気持ち。
イ 似合うとは言い難いピンクの口紅に浜崎さんがこだわる本当の理由を、解き明かしたいと思う気持ち。
ウ 似合うとは言い難いピンクの口紅を浜崎さんが買うことを、美容部員としては許せないとと思う気持ち。
エ 似合うとは言い難いピンクの口紅にこだわる浜崎さんの心を解きほぐし、美容部員としての誇ほこりを得たいと思う気持ち。

問 5 ———線部⑤「どんな色のことだろう、あかるいとはどういうことだろう」とありますが、この疑問に対して結乃が得た答えは何ですか。「く色」につながるように、本文中から二十五字以内で抜き出し、最初の三字と最後の三字とを答えなさい。

問 6 ———線部⑥「出過ぎたことをお聞きしました」について。

I 「出過ぎたこと」とは具体的にどういうことですか。その答えを説明した次の文の空欄に当てはまる言葉を、二十五字以内で答えなさい。

浜崎さんが ということを聞こうとしたこと。

II Iのように「出過ぎたこと」を浜崎さんに結乃が聞いてしまったのはなぜですか。その答えとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア いつもの元気がない浜崎さんに化粧品を購入する喜びを知って、元気になってもらいたかったから。

イ これまで結乃から化粧品を買ったことがない浜崎さんに、ぜひとも化粧品を購入してもらいたかったから。

ウ 浜崎さんが誰のために化粧品を買おうとしているのかが知りたくて、好奇心を抑えることが出来なかったから。

エ いつもの元気がない浜崎さんの気持ちに寄り添い、浜崎さんが化粧品を選ぶのにできるだけ力になりたかったから。

問 7 ⑦に入る言葉として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 細かい イ 太い ウ かわいい エ とげとげしい

問 8 ———線部⑧「何か不思議なものが見えてきた気がして私は目をこすった」とありますが、「何か不思議なもの」とは具体的にどのようなものですか。その答えを本文中から二十一字で抜き出し、最初の三字と最後の三字とを答えなさい。

問 9 ———線部⑨「それです！ それですよ」とありますが、この時の結乃の気持ちの説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 浜崎さんに似合う口紅が見つかり、美容部員の仕事をしていて良かったと思う気持ち。
- イ 浜崎さんも結乃も気に入る口紅が見つかり、二人の気持ちが一致したことを喜ぶ気持ち。
- ウ 今の浜崎さんの顔を明るく輝かせる口紅が見つかり、うれしくて興奮している気持ち。
- エ 浜崎さんの自然な笑顔を引き出す口紅が見つかり、浜崎さんの色に対する感性に感心する気持ち。

問10 — 線部⑩「ありがとうございます」とありますが、この時の結乃の気持ちに当てはまるものを次のア～オの中から二つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 美容部員としての結乃の腕を信頼してくれた浜崎さんへの感謝の気持ち。
- イ 愛する人の死の際にはどうすればよいかを教えてくれた浜崎さんへの感謝の気持ち。
- ウ 自分に自信が持てずにいた結乃から口紅を買ってくれた浜崎さんに対する感謝の気持ち。
- エ 口に出すことがためられる家庭の事情を結乃に話してくれた浜崎さんへの感謝の気持ち。
- オ 化粧品が人にとってどれだけ必要なのかを改めて教えてくれた浜崎さんへの感謝の気持ち。

問11 — 線部⑪「これから、最後の大事なや」とありますが、浜崎さんにとって「大事な」とはどのようなことですか。その答えとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 今まさに死にゆこうとしている初恋の人を、悲しみをこらえて明るい笑顔で見送るということ。
- イ 化粧をすることによって、これまで誰にも見せたことがないような明るい笑顔を作り出すということ。
- ウ 死にゆく初恋の人に明るい笑顔を見せ、初恋という一生の思い出を胸に刻んで旅立ってもらおうということ。
- エ これまで化粧をしたことがなかった浜崎さんが一番似合う化粧をして、初恋の人の死に立ち会うということ。

三

あとの問いに答えなさい。

問 1

次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に改めなさい。

- ① サツ|チュウ|剤を使用する。
- ② 小麦粉をユ|ニユウ|する。
- ③ 朝顔の|カン|サツ|日記をつける。
- ④ 冬型の気圧|ハイ|チ。
- ⑤ 肉を|カ|コウ|する。

問 2

次の①～⑤の文の二つの空欄には、それぞれ同じ漢字が一字入ります。その漢字を答えなさい。

- ① 掃□——□去
- ② 境□——□閣
- ③ 微□——□顔
- ④ 明□——□読
- ⑤ 集□——□積

問 3

次の①～⑤の文の——線部は、間違った漢字が使われています。正しく書き直しなさい。

- ① 遠い山々を望|む。
- ② 雑|紙|を駅の売店で買う。
- ③ 試合に破|れても負けない気持ち。
- ④ この景色を心に止|めておくことを決意する。
- ⑤ この問題は優|しい問題だ。

